

編集後記

第18号にも、論文10篇に研究ノート1篇、計11篇の作品が寄せられました。前号の後記で申し述べた分野別の寄稿数の不均衡は、本号ではさほど目立たず、本学の紀要に相応しい主題の分布を示しています。執筆者の年齢分布も然りと申せましようが、一つ痛惜の念を以て記さなくてはならないのが、発刊は無論、校正刷を御覧になることもなく、渡邊信夫教授が急逝されたことです。宮城学習センター所長として東北・北海道地区の本学教育の先頭に立っておられた先生は、また永年、海運史を軸に日本近世史研究の第一線で活躍して来られました。本号収載の論文が先生のお仕事となったことは、無念の一語に尽きます。遺稿の校正は、高木昭作教授にお願いしました。

顧みるとここ数年、編集委員会では、判型・表紙の意匠・要旨の記載方式、そして何よりもレフェリー制の採用について話し合いが行われて来ました。レフェリー制に関して申せば、しかし制度導入の前提として、私ども教員のより積極的な寄稿への姿勢が求められましよう。学部教育全国化の進捗と平成13年4月からの大学院設置に必然的に伴う繁忙のさなか、研究活動の一環として、専門誌への投稿、著書の公刊に加え、今後上記の点にも思いを致す必要があるかもしれません。

平成13年3月

放送大学研究年報編集委員会

委員長 伊藤貞夫
委員 酒井豊子・馬場謙一・坂井素思
森谷正規・杉浦克己・岩槻邦男

放送大学研究年報 第18号 平成12年

平成13年3月26日 印刷

平成13年3月31日 発行

編集兼発行者 放送大学

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2丁目11番地

電話 043-276-5111 (代表)

印刷者 高山印刷株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-11-5 (佐川ビル)
